



## 渡島檜山国有林の地域別の森林計画の変更について

### 【変更理由】

次の理由から森林法第7条の2第3項において準用する同法第5条第5項の規定に基づき、変更する。

- 1 造林の省力化により、収支のプラス転換を可能とする「新しい林業」を展開するため、低密度植栽等を推進することとして、造林及び保育に関する事項を変更する。

なお、本変更計画は、令和6年4月1日から適用する。

### 【変更項目】

- 1 本文については、変更等を行う項目に係る部分を掲載しており、文中の下線部が変更・追加箇所である。
- 2 第Ⅲの別表については変更となる別表のみを掲載している。



【現行計画】

第3 森林の整備に関する事項

2 造林に関する事項

(1) 人工造林に関する事項

イ 人工造林の標準的な方法

(ア) 人工造林の植栽本数

樹 種	基準本数(本数/ha)
トドマツ	3, 000
アカエゾマツ、エゾマツ	3, 000
カラマツ、グイマツ	2, 500
スギ	3, 000
広葉樹	4, 000
クロマツ(海岸林)	10, 000
その他針葉樹	3, 000

注) 複層林施業については、上記の本数を目安としつつ、上木の樹冠下を避けた範囲を植栽区域とする。

## 【変更計画】

### 第3 森林の整備に関する事項

#### 2 造林に関する事項

##### (1) 人工造林に関する事項

##### イ 人工造林の標準的な方法

##### (ア) 人工造林の植栽本数

樹種	基準本数(本数/ha)
トドマツ	1,500~2,500
アカエゾマツ、エゾマツ	1,500~2,500
カラムツ、グイマツ	1,500~2,500
スギ	2,000~3,000
その他針葉樹	1,500~3,000
クロマツ(海岸林)	10,000
広葉樹	2,000~4,000

注) 複層林施業については、上記の本数を目安としつつ、上木の樹冠下を避けた範囲を植栽区域とする。

【現行計画】

第3 森林の整備に関する事項

3 間伐及び保育に関する事項

イ 主要な樹種の保育の時期等の目安は、次のとおりである。

作業種別	樹種	保育作業の年次別計画																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
下刈	スギ	○	◎	◎	○	○												
	カラマツ	○	◎	○	○													
	トドマツ																	
	エゾマツ	○	◎	◎	○	○	○	○	○									
	アカエゾマツ																	
つる切・除伐	スギ								△			△			△			
	カラマツ						←○	→		○	→				→			
	トドマツ																	
	エゾマツ									←○	→				○	→		
	アカエゾマツ																	

- 注1) 春植を基準としているので、秋植は植付年度の翌年を1年目と読み替える。  
 2) 下刈の○は1回刈、◎は2回刈を示す。2回刈については必要性を勘案のうえ画一的な実施を避けること。トドマツ等の下刈で、8年目については、必要な箇所に適用する。  
 3) つる切・除伐の←○→は標準年次と範囲を示している。  
 4) つる切・除伐の△は、つる等の繁茂が著しい箇所に適用する。  
 5) 地拵でササの根茎を除去した場合等においては、現地の状況に応じて下刈回数の削減に取り組む。

ウ 保育の作業方法

(ア) 下刈

下刈については、目的樹種の成長を阻害する草本植物等を除去し、目的樹種の健全な育成を図るために行うものとする。なお、目的樹種には、植栽木のみならず、現地の状況に応じ、高木性の天然更新木も含めるものとする（(イ)～(エ)においても同様）。

下刈の終了時点の目安は、樹種、植生の種類により異なるが、大部分の植栽木が植生高を脱し、又は同程度となり、生育に支障がなくなった時期とする。

【変更計画】

第3 森林の整備に関する事項

3 間伐及び保育に関する事項

イ 主要な樹種の保育の時期等の目安は、次のとおりとする。

作業種別	樹種	保育作業の年次別計画																
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
下刈	カラマツ	←			→													
	トドマツ																	
	エゾマツ	←																
	アカエゾマツ																	
	スギ	←																
つる切・除伐	カラマツ																	
	トドマツ																	
	エゾマツ																	
	アカエゾマツ																	
	スギ																	

表中の\*は標準的な実施年の範囲を示している。

注1) 春植を基準としているので、秋植は植付年度の翌年を1年目と読み替える。

2) 下刈については、地拵方法の違いによる植生の回復状況や植栽樹種の特性を踏まえるなど可能な限り回数削減をする。

3) つる切・除伐の実施回数については、通常1回とし、現地の状況により必要と判断される場合のみ実施する。

ウ 保育の作業方法

(ア) 下刈

下刈については、目的樹種の成長を阻害する草本植物等を除去し、目的樹種の健全な育成を図るために行うものとする。

下刈の終了時点の目安は、樹種、植生の種類により異なるが、成林に支障がないと判断された時期とする。